

10年後の糸島 夢をカタチにしよう

糸島市が誕生して、1年。長い歴史を持つ豊穡の地・糸島は、今、大きく変わろうとしています。自然や人情、九州大学、先端産業など、豊かな地域資源と無限の可能性を秘めた「いとしま」。

私たちが住むこの地域に、新しい風が吹き始めました。

糸島の豊かな地域資源(魅力)を、どのように新しい風に乗せていけば「人も元気 まちも元気 新鮮都市 いとしま」が、実現するのでしょうか。

10年後の糸島を明るくしたい。そのためには、私たち市民一人ひとりがどのように取り組んでいったらよいのか。

10年後の糸島を想像し、夢を語り、カタチにするための方策を語り合いました。



参加者紹介(写真左より)

コーディネーター	高橋 徹郎さん(タレント、パーソナリティー)
出席者	菊川 重紀さん(水素エネルギー製品研究試験センター(副センター長))
	吉木 美恵子さん(九州大学伊都キャンパス 農学研究院分室 室長補佐)
	松本 嶺男さん(糸島市長)
	伊藤 洋介さん(福岡水素タウンモニター 元・南風台4丁目自治会長)
	茂渡 ゆう子さん(版画家、糸島クラフトフェス実行委員)
	平野 智巳さん(糸島の自然を守る 糸島わはは主宰、ラン生産農家)

糸島の魅力

情報発信をしていくことがたいせつ

豊かな自然、豊富な産物、人情が厚い、大都市に近い、地域文化：

豊かな自然と食、そして人

高橋 ●糸島の魅力でイメージしやすいのは自然だと思います。まず、平野さんの立場から、糸島の魅力や他のまちと比べての魅力をお願いします。

平野 ●まず、海と山、空があること。ネット社会になり、今は田舎に住んでいても、世界の人と情報を共有することが出来ます。

そして食材が豊富であること。他のまちでは考えられないことです。一村一品に取り組みまちもあります。糸島にはいろんな産物があり直売所も成功しています。

人も、アーティストや農業者など、世界に通用する人が市内に住んでいて、糸島を楽しむ術を知っておられる。これらの魅力を生かすことで、今後の糸島の文化的発展や地域力の厚みを増すことができると思います。

茂渡 ●確かに、私を含め、糸島にはアーティストが多いですね。

高橋 ●アーティストを呼び込む施策はありますか。また、アーティストにとって、糸島の魅力とは何でしょうか。

市長 ●これらのアートを糸島の魅力として活用しようと、志摩庁舎のスペースを利用したPR支援などを計画しています。

糸島は、創作活動に向けた環境で、福岡市からのアクセスもよく、販売面でも好条件。それが魅力で、アーティストが集まるのかもしれない。

糸島市民の受け入れる力

高橋 ●では、昨年糸島に来られた菊川さんは、糸島の魅力についてどう思われますか。

菊川 ●糸島の人には、受容性がありますよね。各地を転動してきましたが、糸島の人々が一番受け入れてくれた

印象があります。

水素の実証実験でも、水素は危険なイメージがあり「環境にはよいが、家庭で使うのは…」という人もいますが、しれません。しかし、南風台や美咲が丘では実証実験への参加希望者が多く、予定数を大幅に上回りました。

これは、やはり糸島の人々の受容性があるということ、魅力の一つだと思います。

伊藤 ●南風校区に住む人たちの、人柄でしょう。全国各地から糸島に移り住む人もいますが、地域活動やサークルなど、新旧住民が、みんな仲良く交流しています。

市長 ●やはり、みなさんが糸島市に住もうと思ったとき、福岡市を抜きには考えられません。

福岡市から程よい距離に家を建てるといふことです。

私は「ライフタウン」と呼んでいます。稼ぐ場所は福岡市、住む場所は糸島のようなロケーションを望む。そう考える人が多くなってきた

いるのではないのでしょうか。

高橋 ●私も糸島に来てから人付き合いが濃くなりました。いい環境だと思います。

では、福岡市と糸島市の両方に住まいを持つておられる吉木さんはいかがですか。

吉木 ●私は志摩地域に家を持っていますが、おっしゃるとおり糸島市民の人柄はよく、大学での授業でもそれを感じます。

授業で施設園芸を見せていただくときも、糸島の農家の人は、とても協力的でした。

地域の魅力を情報発信

高橋 ●糸島の魅力をまとめると、「大都市に近い」「人情がある」「自然が豊富である」といったところでしょうか。

海と山、空、豊かな食
そこに糸島の魅力があるんです
平野 智巳さん

